放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　5年　1月　14日　　事業所名　　しあわせ駅早良

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1階、2階、テラスや近隣の公園等も利用している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		指定基準に基いた人員配置を行っている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		常に事業所の安全点検を行い必要な箇所は修理、改善するように努めている。バリアフリーのお手洗いルームを設置している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		定期的な職員会議を行い、振り返り、ニーズの把握、療育方法の見直し、目標設定を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的に（半年に一度）保護者向けアンケート調査を実施し、意見をもとに、ニーズに応えるよう業務改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	評価結果について職員で話し合い、よりよいサービスができるよう努めている。社外からのアドバイス等は積極的に取り入れている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修、外部研修にも参加している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		子ども・保護者のニーズ、課題を把握した上で、チーム全体で話し合い、デイサービス計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールを使用している。保護者への丁寧な聞き取りを行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		様々なアイデアを持ち寄り、チーム全体で話し合って活動プログラムを企画している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動プログラムは変化を持たせ、また、子供たちの状態や好みに応じて臨機応変に対応している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日は日常生活の課題や全体のレッスン、休日は楽しめるイベントや屋外での体験活動なども取り入れ、それぞれに合った支援を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		子供の状況や保護者のニーズに応じて個別活動と集団活動を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日利用する子どもについて、配慮すべき点や役割分担など職員全員で確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		活動記録の記入をしながら、その日の支援について話し合い、共通認識が持てるようにしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		全体・児童一人ひとりの活動記録の記入を行い、支援の改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、職員全員で話し合い、計画の見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○		ガイドライン総則の基本活動に基づき、自立・創作・交流・余暇、複数組み合わせて支援を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		利用児の状態をよく知り、専門知識を持ったふさわしい者が参画している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校との情報共有は確実に行い、学級担任との連絡調整を密にしてトラブルの未然防止を心がけたり、子ども・保護者の心のケアなどに努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアが必要な利用児が在籍していない。 必要な児童を受け入れる際は連絡体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前の様子や課題等を情報共有し、支援につなげている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		要望があった場合、これまでの支援内容等の情報提供を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修に参加した職員が研修内容について報告することにより、職員全員の専門性の向上につなげている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		公園で活動したり、地域のイベントに参加したりしている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や、送迎時またはお電話で子供の状況を伝え合い共通理解している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	○		保護者が子育てにより大きな喜びを感じて日々を過ごせるよう、子どもの成長している姿についてお話したり、相談を受けての助言を行ったりしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学時や契約時に丁寧な説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者が子育てについて自信を持てるよう、相談には随時、傾聴・共感・助言・支援を行っている。状況によっては学校と連携し問題解決を図っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者のニーズに合わせて検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情に対しては貴重なご意見と踏まえ真摯に受けとめ丁寧に対面での対応を行い職員全体で共通認識し改善に努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		HP、SNSで活動内容、行事等をお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報保護規定に基づき、十分注意している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ジェスチャーや非言語コミュニケーションも工夫しながら意思疎通を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		近隣の公園での活動の際などは、交流することもある。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを策定し、感染症対策のために、換気・消毒・手洗いなどを徹底している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回、避難訓練を行い、地震・火災・水害等の災害に備えている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止研修を実施し、職員全体での周知徹底を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		現在、身体拘束の必要性のある利用児はいないが、マニュアルの整備・職員間への周知等は行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーのある利用児は、職員に周知徹底し対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事故や子どものケガに繋がりそうな事柄については、原因を明確にし、対策をとっている。	